

国公幼総会・研究大会 山口大会から

全国国公立幼稚園・こども園長会(国公幼)は6月16、17の両日、山口市で第74回総会・研究大会山口大会を開催した。対面での開催は4年ぶり。研究主題は「未来を拓き 生き抜く力を育むための幼児教育の創造」今、国公立幼稚園・こども園に求められること。参加者は、変化の激しい社会における園経営の課題について意見を交わし、各園の経営や教育・保育内容を改めて見つめ直した。総会では、高橋慶子・東京都目黒区立みどりがこども園園長が新会長に就任した。

提言

大阪府東大阪市立枚岡幼稚園の下岡知子園長(前任の東大阪市立小阪こども園)の取り組みを発表)、園経営内容は、教育課題(A)、園経営(B)、園経営(C)の3テーマで実施。教育課題は富山市立速星幼稚園の村井園美園長、教育内容は



4年ぶりに対面で開催された総会・研究大会の様子

教育課題

遊びの中から 幼児理解深める

富山市立速星幼稚園

富山市立速星幼稚園では、幼児の遊びの中から学びや育ちを捉えて幼児理解を深めていくための方法や工夫を探るとともに、幼児の学びや育ちを園と保護者が共有するための発信方法や工夫を考える取り組みを進めた。

公開保育研修会を通じた保育の振り返り、保育参加・行事を通じた実際の活動や遊びの様子発信などの

実践を行う中、運動会の時期には、5歳児がリレーの勝敗にこだわりチームで力を合わせて仲間意識を高めていく過程のエピソード記録から事例検討を行った。保育者間で子どもたちの実態や姿、その中にある思いや気付きを探りながら意見交換し、子どもの経験に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)が数多く含まれていることを確認。子どもが何を学び、育ちつつあるかを協議し、共通理解を図った。

また、運動会に向けて子どもたちが意欲的に活動する姿やそれまでの過程、心の変容、家庭で話題になっていることなどをクラス使用特別号や保育ドキュメント・セッションで発信した。発信の内容やタイミングも保育者間で検討し、運動会直前に発信した。

マニフェストで

円滑な園運営に

大阪府東大阪市立小阪こども園

教育内容

東大阪市立小阪こども園は、幼保連携型認定こども園として開設されて6年目の園。幼稚園と保育所の職員が互いの特性やシステム、保育内容を理解し合い、円滑な園運営を図るため、下岡園長が自園の「こども園マニフェスト」を作成。全教職員が一体となり、子どもを中心に据えたこども園づくりを目指した。

同時に、小阪こども園スローガンとして「毎日できる。どの子にもできる。一緒にできる。一人でもできる。今日できなくても、明日できるようになるかも」

生活リズムに配慮 園内組織を見直す

山梨県忍野村立認定こども園忍野幼稚園

園経営

忍野村立認定こども園忍野幼稚園は、平成30年に認定こども園化された。子どもたち一人一人のしなやかな心を育むことを大切にしたいと願い、保育を行っている。

そうした中、認定こども園化による保育時間の違い、職員の配置換えが増加したこと戸惑いながらも、どうしたら子ども一人一人が自分らしさを発揮しながら、伸び伸びと園生活を送ることができるかを模索している。

以前と比べて保育者の話し合いの場が限られてしまいう課題がある中、園全体の運営を工夫することで保育の質を高めることを目指し、園組織をどのようにできるかを考えた。

取り組んだ実践は「幼児一人一人の生活リズムの多様性による配慮について考えること」「円滑な保育を目指した園内組織の見直しにより、保育の質を高めていくこと」の二つ。具体的には、保育者の時差勤務を

踏まえた引き継ぎや生活リズムに沿った保育内容の工夫、保育者間の情報共有による問題点の抽出、開かれた園の構築などを行った。

特別事業委、豊かな感性を育む研究継続

総会では本年度の活動方針、活動の重点、各部各委員会の活動計画を決めた。特別事業委員会は「身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」身近なもので遊んで！親子で一緒に楽しむ」をテーマとした2年目の研究に取り組む。全国キャンペーン・研修会の実施、報告書の作成・配布、教材の作成・ホームページへの掲載などを行う予定。